

豊稔池

(ほうねんいけ)

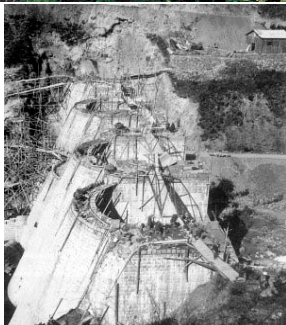


ユル抜き状況



堤体遠景

(昭和4年)
築堤工事状況



ため池の概要

□ため池の所在地

香川県観音寺市

□ため池の特徴

豊稔池は、大正時代の二度の大干ばつを契機に、工学博士の佐野藤次郎氏の指導のもとに、当時、最新技術であったマルチプルアーチ構造を採用して築かれたため池です。

中世ヨーロッパの古城を偲ばせる偉容と風格を漂わせており、景観的にも学術的にも随所に斬新な設計を取り入れました。特に洪水吐はサイフォン式を導入するなど、その構造は高い評価を得ており、平成18年に国の重要文化財に指定されました。

大正15年に始まった堤長128m、堤高30.4mの工事は、地元農家を中心とする作業班が担い、身近な材料を使って僅か3年8ヶ月で完成しました。

現在、豊稔池からは約530haに農業用水を供給しており、かつて「大野原は月夜に焼ける」と言われた原野が、米と野菜、果樹等による複合農業経営を中心とした生産性の高い集約型農業地域に変わりました。特にブランド野菜「らりるれレタス」は全国に出荷され、その名を知られています。

豊稔池の地上30メートルの堤から放たれる放水は讃岐路に本格的な田植えシーズンを告げる風物詩となっており、毎年多くの観光客が訪れます。

関連情報

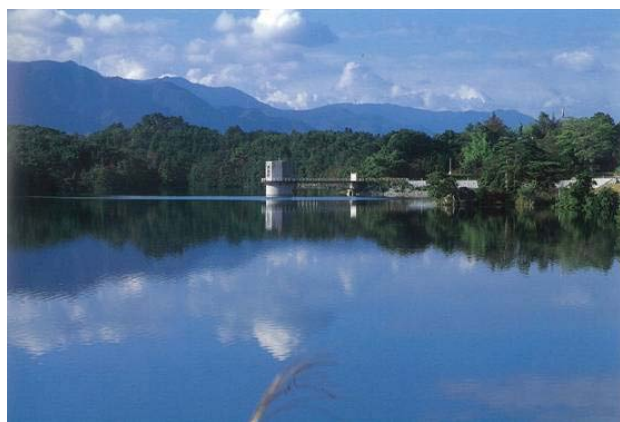
讃岐のため池誌(編集)讃岐のため池誌編さん委員会
(発行)香川県農政水産部土地改良課

満濃池

(まんのういけ)



遠景



貯水池状況

ゆる抜き



ため池の概要

□ため池の所在地

香川県仲多度郡まんのう町

□ため池の特徴

満濃池は、弘法大師空海が造った日本最大級のため池で、丸亀平野3200haの田畑を潤しています。毎年6月13日の「満濃池初ゆる抜き式典」は、田植え前の重要な行事であると同時に、多くの見物客で賑わう香川の風物詩です。

また、満濃池樋門は明治三年の再々築の際に掘られた石穴の坑口であり、五角形迫石を使用し石庭のコーニス、袖壁、柱頭付端柱で坑門を飾っており、登録有形文化財に指定されています。

讃岐平野は大陸や朝鮮半島の影響を受けて早くから開拓され、大和と吉備の二つの文化圏に近接するという地理的条件から、稲作の重要拠点の一つとなり、大宝年間(701-704)には、この地にため池が築かれたとされています。

しかし、度重なる洪水に見舞われ何度も決壊したため、弘仁11年(820年)、築池使として路真人浜継(みちまひとはまつぐ)が金蔵川をせき止めて池とする工事に着手しました。弘仁12年には、京都から空海が讃岐に入り、約3ヶ月で完成させたと言われています。

空海は工事の見渡せる岩山に護摩壇を設け修行を行い、読経の流れる宗教的雰囲気の中で工事が行われたと言われています。

関連情報

讃岐のため池誌(編集)讃岐のため池誌編さん委員会
(発行)香川県農政水産部土地改良課

蛙子池

(かえるごいけ)



全 景



肥土山農村歌舞伎

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県小豆郡土庄町

□ため池の特徴

蛙子池は伝法川沿いの地域の水不足を解消するため1686年に造られた小豆島最大のため池で、現在でも農地200ha余りを潤す地域の主水源として利用されています。

小豆島の生活では水の苦労は大変なものであり、見かねた肥土山村の大庄屋である太田伊左衛門典徳が、天和3年(1683年)、銚子溪の奥地で築造工事に着手しました。しかし工事は難航を極め、典徳は資金作りに家財や水田まで売り払い、その苦労の末に池は貞享3年(1686年)に完成しました。

この地域の「肥土山農村歌舞伎」は、困難を極めた蛙子池が完成し、池の水が肥土山離宮八幡宮の側溝に流れてきたのを見た村人たちが、喜びのあまり神社の境内に仮小屋を建てて役者一座の芝居を催したのが始まりとされています。

農村歌舞伎は、後継者を育成し歌舞伎を保存し継続していると評価され、「第7回むらの伝統文化顕彰」で最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞しています。その舞台は1900年に建て替えられた茅葺き寄せ棟造りで、蛙子池周辺の茅が使われています。

池築造がきっかけで生まれた伝統文化の継承を地元の人々が担い続けており、蛙子池は地域の人々にとってかけがえのない資産となっています。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課
土庄町誌伝法川水系治水水利水史

井関池

(いせきいけ)



全景



堤防に植栽されている見事なツツジ

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県観音寺市

□ため池の特徴

大野原平野は今では香川県有数の豊穡の地として知られていますが、350年ほど前までは耕す人も住む人もなく、無数に点在する古墳の間を狐狸が走り回るといふ文字通りの大野ヶ原で荒涼たるものでした。

井関池は、水利にさえ恵まれればたちまち良田となることが分かっていたこの土地に“開墾の祖”といわれる平田与一左右衛門が私財を投じて1644年に築いたものです。

大野原平野はその後、新田開発が進み、井関池は今や500haにわたる農地への重要な水源となっています。

現在、この地域は農業先進地として、米作はもちろんのこと香川を代表するブランド野菜「らりるれレタス」の一大産地となっており、池は地域農業には欠かせない存在となっています。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課
井関池由来水掛り池々之覚

国市池

(くにいちいけ)



全景



カヌー練習風景

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県三豊市

□ため池の特徴

1597年に築造された国市池は、高瀬町231haの農業用水源として利用されています。

長い歴史をもつ国市池は、「中村古事記」にも記載があり、それによると当初は日本一の大きさを誇る満濃池は別格として、さぬき一番の大きさを誇る「国一池」と呼ばれていましたが、明治初期以降「国市池」と改記されたものです。

国市池は晩秋減水期になるとハマシギ、シロチドリなどがよく見られます。サギ類もこの時期をよく知っていて、コサギ、ダイサギ、アオサギの大群が食物を採りに飛来します。

冬季には淡水ガモ、潜水ガモが多くなり、ピーク時には1000羽を数えます。毎年、珍しい鳥が飛来するため、愛好家に話題となっているため池であります。

また、近接する高校カヌー一部の練習場となっており、クラブ活動の始まる夕方になると、池周辺でランニングをしたり、カヌーの練習に打ち込む生徒の姿で賑わいを見せており、地域にとって欠くことのできないため池です。

関連情報

讃岐のため池誌(編集)讃岐のため池誌編さん委員会
(発行)香川県農政水産部土地改良課

中村古事記

山大寺池

(やまだいじいけ)



全景



山大寺池の浮き栈橋

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県木田郡三木町

□ため池の特徴

1628年に築造された山大寺池は、現在も上高岡・下高岡・井戸・平井地区などの水田102haの水源として利用されています。

隣接する嶽山(標高1200m)を映す水面や堤の芝桜が美しく、「新さぬき百景」の一つに指定され、四季折々に美しい姿を見せています。

ため池が所在する獅子の里三木町では、平成4年以来、獅子舞フェスタが山大寺池周辺で開かれるなど、ため池を中心とした地域振興の核となっており、町民憩いの場として親しまれています。

関連情報

讃岐のため池誌

(編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課

宝幢寺池

(ほうどうじいけ)



三つのため池が四角い形を造っている
(宝幢寺下池、上池、仁池)



全景

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県丸亀市

□ため池の特徴

宝幢寺池は、丸亀平野の農地約130haをかんがいするため池で、上空から見ると、三つのため池(宝幢寺下池、上池、仁池)が四角い形を作り、独特の景観を醸し出しています。

3つの池は中堤防で分断されていますが、水利慣行に従い、9ヶ所の樋管工から順次取水されています。

池は、天明3年(1783年)に築造されたものと伝えられています。池の中には白鳳期創建のさぬき古代寺院の中でも最古式に相当する宝幢寺跡があり、池の水が干上がると地底から白鳳時代の寺の塔芯だったと見られる大きな礎石が現れます。

関連情報

讃岐のため池誌 (編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課

公渚池

(きんぶちいけ)



全景



春の公渚池

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県高松市

□ため池の特徴

公渚池は、満濃池などに続き香川を代表するため池で、高松市南部に位置する四箇池(公渚池・神内池・神内上池・城池・松尾池)の中で最も大きく、また透明度が高く、エメラルドグリーンの水は地域の財産となっています。

周囲は、城池とあわせて公渚森林公園として整備され、散策、お花見やレクリエーションなどを通じて、幅広い年齢層の人々が訪れています。

幕末の物情騒然たる頃、高松藩最後の藩普請として、大老大久保主計の総督の下に築造されました。また、第十一代藩主頼聡自らも工事を督励するなど非常な熱意をもって工事が進められ、文久三年(1863年)に誕生しました。

現在は米の他、菜の花、ブロッコリーなど多様な作物が栽培されている農地約200haの農業用水源として利用されています。

関連情報

讃岐のため池誌(編集)讃岐のため池誌編さん委員会
(発行)香川県農政水産部土地改良課

丸亀平野のため池群

(まるがめへいやのためいけぐん)



遠景



遠景(道池)

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県丸亀市

□ため池の特徴

丸亀平野には、さぬきの温暖な優しい風土を象徴するさぬき富士(飯野山)を背景として、榘池、八丈池、金丸池、道池など地域に密着した皿状のため池が密集しています。

「丸亀平野のため池群」とは、一級河川土器川西側に広がるため池密集地を指し、その密集度はため池密度全国1位の香川県の中でも群を抜いており、昔から水に苦しんできた香川を象徴する風景となっています。

この一帯は古代の条里制開拓地域で地割があります。注意して観察すると水みちがあることが発見でき、ため池はこうした水みちに沿って発達しています。

これらのため池は、丸亀平野の農地の主水源となっています。

関連情報

讃岐のため池誌

(編集) 讃岐のため池誌編さん委員会

(発行) 香川県農政水産部土地改良課

三郎池

(さぶろういけ)



遠景



全景



伝説にちなんだ「蛇の像」

ため池の概要

□ため池の所在地

香川県高松市

□ため池の特徴

高松市南部の三谷町に位置し、満濃太郎(満濃池)、神内次郎(神内池)、三谷三郎(三郎池)と並び称される、香川県を代表するため池で、417haの広大な水田を潤しています。

1628年の築造後、かさ上げや堅樋など幾度となく改修が行われてきた歴史のあるため池で、堤体上の蛇の像は、三谷三郎という蛇の言い伝えにまつわるものです。(※下記関連情報参照)

讃岐百選にも選ばれており、自然景観に恵まれ、古くから多くの人が散策に訪れ親しまれています。明治の文人で讃岐名所歌集の著者である赤松景福は、「のどかなる池ノ心を心にて舟も静かに遊ぶ今日かな」と三郎池を詠んでいます。

地元では「三谷地区地域おこし事業」により三郎池周辺に散在する史跡や文化財をめぐる「三谷三郎池ハイキングコース」を整備しており、休日は多くの家族連れで賑わっています。

関連情報

讃岐のため池誌(編集)讃岐のため池誌編さん委員会
(発行)香川県農政水産部土地改良課

※言い伝え

「母と子の“蛇”がいて母の蛇は体が大きく三つの谷にまたがる三郎池でも窮屈なほどでした。西の方には満濃池という大きな池があるという村人の話を子の蛇が聞き、子の蛇は母に満濃池にはたくさん水がありますよと言いました。母の蛇はある嵐の夜に竜巻と共に西へ飛んで行きました。しばらく経って子の蛇が堤で遊んでいると、村の子供達が出来てきて子の蛇をいじめました。すると子の蛇の泣き声を聞きつけて母の蛇は満濃池から竜になって子の蛇の元へ飛んで来ました。」